

今冬のインフルエンザ感染拡大への対応について

平素は、本会事業の推進に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本医師会より標記通知が発出されました。

本件は、インフルエンザの発生状況と抗インフルエンザウイルス薬の供給状況等を下記の通り情報提供するものです。

日本医師会としては、新年に入ってからインフルエンザの感染拡大が継続している点を踏まえ、マスコミ・国民に対してインフルエンザの流行状況、各地での検査キット・治療薬の不足感への懸念、基本的な感染対策の励行等に関し、記者会見（1月8日）において注意喚起を実施。さらに、厚生労働省に対し、治療薬の不足・偏在について、速やかに改善するよう強く申し入れを行っており、感染拡大下において、医療現場で混乱なく診療できるよう国の対応を強固にするよう要請しているとのことです。

貴会におかれましてはご了知の上、会員医療機関へのご周知をお願い申し上げます。

記

1. インフルエンザの発生状況について

厚生労働省「インフルエンザ発生状況」（下記QRよりアクセス）によれば、第52週（令和6年12月23日～12月29日）は「64.39」と猛威的な感染拡大が全国的に発生しております。1月14日付公表の第1週（令和6年12月30日～令和7年1月5日）は「33.82」となっていますが、年末年始の影響が考えられ、引き続き全国的に警報レベルの予断を許さない状況です。

今冬のインフルエンザは、従来型と比較して軽症のケースも報告されていますが、重症化リスクの高い患者（特に高齢者や基礎疾患を有する患者）への影響が懸念されています。



左記のQRコードが上手く反応しない場合は、検索エンジンで「厚労省 インフルエンザ発生状況 2025」にてアプローチ可能です。

2. 抗インフルエンザウイルス薬の供給状況について

令和7年1月9日時点の抗インフルエンザウイルス薬の供給状況（厚生労働省発表／下記QRよりアクセス）につきましては、卸売業者から医療機関への供給量（令和6年12月2日～1月5日）が、「合計約827万人分」、また、令和7年1月5日時点のメーカー・卸売業者の保有量は、「合計約1,506万人分」と、推定患者数からは十分量との明示がされています。

しかし、特にオセルタミビルリン酸塩製剤に関しましては、一部供給に偏在があり、地域医師会及び会員の先生より不足感があるとの声が届いておりますので、上記のように厚生労働省等に対応を求めています。



左記のQRコードが上手く反応しない場合は、検索エンジンで「厚労省 抗インフルエンザウイルス薬の供給状況」→「関連法令・通知・事務連絡」→「2025年1月9日事務連絡」にてアプローチ可能です。

●参考（日本医師会ホームページ）

- ・日本医師会メンバーズルームから別添文書の閲覧が可能です。

https://www.med.or.jp/japanese/members/bunsyo/data3/igika/2024ig_1738.pdf

※閲覧にはユーザー名とパスワードでのログインが必要です。

ユーザー名：会員ID（日医刊行物送付番号）の10桁の数字（半角で入力）です。

宛名シール下部に印刷されている10桁の数字です。

パスワード：生年月日の「西暦の下2桁、月2桁、日2桁」を並べた6桁の数字（半角）